

琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会（第7回） 議事概要

- 1 開催日時： 令和5年3月29日(水) :14:00~16:00
- 2 開催形式： web 会議
- 3 出席者： 多々納裕一委員（座長）、石田裕子委員（副座長）、津野洋委員、中川一委員、中村正久委員
- 4 議 事： (1) プラスチック対策検討会の取組状況について
(2) 水源保全連絡会議に関する取組について
(3) リスクファイナンス連絡会議に関する取組について

(1) プラスチック対策検討会の取組状況について

- 関西広域連合等の施策と効果の関連を見るためにも、プラスチックの代替品や生分解性プラスチックの普及率についても検証モデルに組み込んでもらう方がよい。
- まだまだ精緻化するところは結構ある。人間の努力行為あるいはモラルなどのヒューマンファクターや市町村の条例化による人間の行動規制、川の営力なども影響してくる。
- ベースのモデルを作り、様々な要素を踏まえて精緻化し、人の行為でごみの量がどう変化するかといったモデルを組み込むなど、いろんな改良をしてもらうとよい。
- 市民の方からごみの写真をスマホで送ってもらい発生源の情報を集めたり、あるいは河川のカメラで年間のプラスチックごみの流出量を定常的に把握するなど、モニタリングを継続し、施策との関連性を分析できるようにすると、性質ごとにどれくらいごみが出てきそうか分かるかもしれない。

(2) 水源保全連絡会議に関する取組について

- この部会は森林の状況と水資源量との関連性を分析するという議論がもともとあったが、それを政策的に分かりやすい指標まで落とし込めていないところがあった。説得力のある議論を進めるに当たり、気候変動関係で既往研究があるはずなので、研究成果を整理しながら進めた方がよいと思う。
- 獣害がどれだけ進めば、今後、どういうふうに水源保全に影響してくるのか、あるいは土砂流出にどう効いてくるのか、そういったことも踏まえてトータルで琵琶湖周辺の森林の問題を検討して欲しい。
- シンポジウムで醸成された機運をどういう活動で使うかという議論で、琵琶湖の環境改善っていうのは、皆さん興味をお持ちだと思うけど、森林植生がどれほど効果を持つかという議論については、まだはっきりしていない。そこを準備していくことがこれから課題だと思う。

(3) リスクファイナンス連絡会議に関する取組について

- 霞堤のようなグリーンインフラでは、霞堤で洪水を率先して引き受ける地域と、霞堤により洪水が軽減されるという地域がある。少しまとまりは小さくなるが、リスク分散の考えがあるかと思う。

- リスクの定量化みたいなところをちゃんとできれば、もっとよくなるのではないかと思う。その上で、どのように補完するかということにつながる。
- 誰かがリスクを引き受けているということを流域の中で理解を深めていくことが、この研究会や広域連合の役割かと思った。そういった取組が今すぐできなくても将来的にできるように検討する余地は残していただきたい。
- 琵琶湖・淀川流域だけでも、どこにどういうリスクがあるのかマップ化、可視化されて、上流が負っているリスクを流域全体で守る仕組みができればよい。